

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02137

研究課題名（和文）外国人の「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」創出にむけた研究

研究課題名（英文）Research toward the creation of a "multicultural conviviality" model for "acquiring and defending the rights" of foreigners

研究代表者

鄭 栄鎮（Chung, Youngjin）

大阪公立大学・都市科学・防災研究センター・特任講師

研究者番号：70748227

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現在、日本で一般的となっている「相互理解・尊重」モデルの「多文化共生」の限界の乗り越えを企図するため、大阪府東部自治体に焦点をあて、文献資料調査や公開研究会によって、行政等の外国人施策の現況の検証と、同自治体での在日朝鮮人による社会運動の歴史などをヒアリングし、運動および施策の現況と成果・課題を検証した。これによって、外国人の「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」の理念と施策が創出されるためには、当事者の運動団体が果たす役割がきわめて大きいことを明らかにした。あわせて、ヒアリング内容等を論文化し、それらを取りまとめた報告集を書籍として発刊した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現在、日本で一般的となっている「相互理解・尊重」モデルの「多文化共生」とは異なる、外国人の視点や要求がもととなる外国人の「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」の理念と施策が創出されるためには、当事者の運動団体が果たす役割がきわめて大きいことを明らかにした。これにより、既存の「多文化共生」とは異なるあらたな「多文化共生」モデルを提示することができた。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the municipalities in the eastern part of Osaka Prefecture. Through a literature review and open study meetings, we will examine the current status of administrative and other policies for foreigners in the municipality, and interview the history of social movements by zainichi Koreans in the municipality. The current status, achievements, and challenges of the movement and its policies were verified. Through these studies, we have clarified that the role of the movement groups concerned is extremely important in creating a "multicultural conviviality" philosophy and policies that are based on the "acquisition and protection of rights" model for foreigners. In addition, we published a book containing a compilation of the interviews and papers.

研究分野：社会学

キーワード：多文化共生 在日朝鮮人 在日コリアン 外国人 社会運動

1. 研究開始当初の背景

近年、日本に居住する外国人は増加の一途をたどり、在日朝鮮人などの旧植民地出身者とその子孫の減少傾向の一方で、いわゆる「ニューカマー」外国人の居住年数の長期化と定住化傾向がみられる。さらに、2019年4月からの「出入国管理及び難民認定法」の改定施行によるいわゆる「外国人材」の受入れによって、さらなる外国人の増加がみられる。そのような状況のなか、地方自治体では、増加と定住化する外国人と日本人との葛藤や摩擦を最小限に防ぐことが必須となっており、そのキーワードが「多文化共生」である。すでに2006年に総務省は「地域における多文化共生推進プラン」を策定していたが、同プランでは「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」などとしており、「相互理解・尊重」がその基調となっている。この「相互理解・尊重」を基調とした「多文化共生」は批判にさらされることが少なくない。外国人に対して、かつての各種国籍制限のような制度的差別は減少したが、国籍や民族の違いによる就労機会の制限は現存し、ヘイトスピーチは皆無ではない。日本人との比較において、外国人はより生活の困難や差別に直面するのは否定できない。しかしながら、外国人と日本人との経済的格差、社会的格差や差別が顧みられることもなく、社会のあり方の変革を求めることのない「相互理解・尊重」モデルの「多文化共生」が日本社会に流通している。「互いの文化的差異を認め合い」や「共に生きていく」などの心地よく、かつ誰もが否定しがたいフレーズによって、外国人が抱えざるを得ない困難は隠蔽され、それらをうむ社会のあり方が問われることはない。外国人の保有文化は「相互理解・尊重」の名のもと、日本人に一方的に消費されてしまう。このような「相互理解・尊重」モデルとは異なる、外国人の権利を守る、もしくは獲得するといった「権利獲得・擁護」を志向した「多文化共生」はありえるのか。それらのために必要となる視点や施策、実践とはなにか。これら本研究開始当初の問題意識である。

2. 研究の目的

本研究は、既存の「多文化共生」に決定的に欠けている外国人当事者の視点や要求を付加することで、「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」を検討・創出することである。現在流通する「相互理解・尊重」モデルの「多文化共生」に決定的に欠けているのは、当事者である外国人の視点である。この「多文化共生」は、「支援」する日本人の視点から導かれており、既存の社会の価値観を大きく損なうことなく、外国人の保有文化を一方的に日本人が消費しつつ、外国人に日本への「同化」を促すものでしかない。本研究では、現在蔓延する「相互理解・尊重」モデルの「多文化共生」への意義申し立てを行い、その限界の乗り越えをめざして、外国人ファーストの「権利獲得・擁護」モデル「多文化共生」を打ち立て、既存の「多文化共生」にあらたな知を加えることを企てることを企てる。

3. 研究の方法

本研究では、外国人当事者の社会運動が市施策へ影響をあたえてきた大阪府東部の八尾市をフィールドとして設定した。同市職員、同市の外国人支援NPOとの連携のもと、外国人当事者の社会運動関係者や同市内NPO等における外国人支援の現場ワーカー、八尾市職員等を招き、その運動の歴史や外国人支援の実践、そして行政施策の現況や施策策定の経緯等を公開の研究会でヒアリングを行い、ヒアリング内容については文字起こしを行い、当該の外国人支援NPOの広報紙にて公開した。あわせて、当該の外国人支援NPOの1974年からの資料を収集してデジタル化を行いつつ、NPOがどのような現状認識から運動を展開してどのような成果を獲得したのか、それらの残された課題等は何にかを検討するため文献調査を行った。さらに、1945年以前からの現在の八尾市を構成する地域において、外国人がどのような生活を送ってきたのか、どのような眼差しを受けてきたのかを明らかにするため、過去の新聞紙面を対象とした文献調査を行った。

4. 研究成果

研究初年度は、パンデミックによる行動制限のために研究実施にも大きな制約が生じた。そのため、文献資料調査に重きを置き、まずは新聞報道や文献資料等から、1945年以前より現在に至るまでの同市における在日朝鮮人、外国人の暮らしを明らかにすることにつとめるようにした。これによって、同市では1945年以前にすでに会社経営などで「成功者」と報道される朝鮮人が存在したこと、また、在日朝鮮人によるコミュニティ団体が組織されていたことを「発見」した。これらの成果は、本研究を連携するNPOによる市民向けの講座にて報告した。

研究計画2年目は、同市における在日朝鮮人による社会運動とその成果、また、行政等の外国人施策の現況を検証することを目的とした研究会を実施した。同研究会で運動当事者および行政当事者からヒアリングすることで、運動および施策の現況と成果を一定検証することができた。これに関連して、同市が同市居住の外国人市民を対象として実施した行政情報提供のニーズにかんする調査報告から外国人の生活上の困難や教育、行政への要望等、外国人が生活上必要とする施策等について検証を行った。

研究計画3年目は、同自治体における在日朝鮮人による社会運動とその成果、また、行政等の外国人施策の現況を検証することを目的とした研究会を前年度に引き続き企画実施してきた。この研究会にて運動当事者および行政当事者からのヒアリングをもとにして、運動および施策の現況と成果を前年度に引き続き検証することができた。また、2021年度に引き続き、新聞報道や文献資料等を掘り起こし、1945年以前より現在に至るまでの同市における在日朝鮮人、外国人の暮らしを明らかにすることにつとめるようにした。さらには、上記社会運動体が発行した運動場の資料や写真等のデジタル化を行い、ヒアリングだけではなくより多面的な把握を行い、研究に資することにつとめた。これについては、同運動体のSNS等で発信し、社会的に還元することにつとめた。これらにより、外国人施策の到達点ならびに未達点を明らかにし、外国人の実態・要求と施策等の乖離や、より、外国人の実態に即した施策や支援のあり方について検証を行い、一年延長した4年目には、前年度より実施してきた同自治体における在日朝鮮人による社会運動とその到達点や未達点、また、行政等の外国人施策の現況やその課題等を検証することを目的とした公開研究会について、そこでのヒアリングの内容を文字化し、各研究会でのスピーカーにその論文化を依頼した。さらに、上述の資料等にて明らかにした1945年以前より現在に至るまでの同市における在日朝鮮人、外国人の暮らしなどについても論文化し、以上の論文をとりまとめた報告集を書籍として発刊した。これにより、「相互理解・尊重」モデルの限界の乗り越えを企図しつつ、同市において外国人の「権利獲得・擁護」モデルの「多文化共生」の理念と施策がいかに創出されようとしているのか、その経緯を明らかにし、行政だけではなく当事者の運動団体が果たした役割が大きかったことをも明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 11
2. 論文標題 書評『和解をめぐる市民運動の取り組み—その意義と課題』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 コリアン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 89 - 92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 242
2. 論文標題 韓国国会議員選挙に投票して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 トッカビ	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 10
2. 論文標題 八尾の朝鮮人の生活とできごと - 1945年以前を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コリアン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 79 - 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 232
2. 論文標題 「おもてなし」ではない、定住と共生を見越した支援を	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 トッカビ	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 7
2. 論文標題 「多文化共生」のオルタナティブ・モデル創出にむけて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市と社会	6. 最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/0002000563	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 20
2. 論文標題 草の根の実践から「多文化共生」を捉え直す: 「多文化共生」を「外国人」のものとするための試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人権問題研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭 栄鎮	4. 巻 6
2. 論文標題 外国人への行政情報の提供のあり方について: 「八尾市外国人市民情報提供等ニーズ調査報告書」から考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市と社会	6. 最初と最後の頁 166 ~ 183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24544/ocu.20230119-002	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 -
2. 論文標題 ベトナムにルーツを持つ子どもを対象としたルーツ語教室の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 分断都市から包摂都市へ	6. 最初と最後の頁 316-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 25
2. 論文標題 八尾市におけるルーツ語教室の実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 感染症と都市のたたかい	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 巻 227
2. 論文標題 『パチンコ』雑感	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 トッカビ	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 八尾市におけるエスニック資源とまちづくり
3. 学会等名 都市再生フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 大阪・八尾における在日朝鮮人コミュニティの形成とトッカビ子ども会の運動
3. 学会等名 京都コリア学コンソーシアム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 在日朝鮮人アイデンティティの変容と揺らぎ：「民族」の想像／創造を考える
3. 学会等名 大阪女学院大学第75回平和・人権研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 地域の視点から民間連運動を捉え直す：一地域の視点から
3. 学会等名 国際高麗学会日本支部第27回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 「在日朝鮮人運動の言説と「民族」アイデンティティ」から 『在日朝鮮人アイデンティティの変容と揺らぎ』へ
3. 学会等名 コリアンスタディーキャンプ2023（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鄭栄鎮・朴洋幸
2. 発表標題 八尾市と「外国人」
3. 学会等名 東アジア包摂都市ネットワークワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 八尾市における「多文化共生」について - 在日朝鮮人による運動の視点から
3. 学会等名 都市住宅学会大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭栄鎮
2. 発表標題 「都市再生」と考慮すべきこと：八尾市の経験から
3. 学会等名 都市再生フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 鄭栄鎮	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 草の根から「多文化共生」を創る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関